

イベントレポート 『2009 K耐久東海シリーズ 第3戦』

開催日 2009年7月19日(日) 13:00 決勝スタート

天候 曇時々晴

最高気温 33.5 (15時)

場所 スパ西浦モーターパーク

エントリー台数 37台



2009年7月19日(日)愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークにおいて、2009K耐久/GT耐久東海シリーズ第3戦が行われた。

九州と関東甲信越地方は梅雨明けしたものの、東海地区は梅雨が明けず雲の多い不安定な天候となり、各チームは雨の心配をしながらのレースとなった。

しかし雲が多いものの気温は33を超え、ドライバーにもマシンにも厳しいコンディションとなった。



KNCクラス(軽NAのクローズドクラス)

毎回最多エントリーとなるこのクラス、今回も前回に引き続き10台のエントリーを集め激戦が繰り広げられた。

予選

予選1位となったのは開幕戦、第2戦とも2位となり、現在シリーズトップであるNo.10「ぼんこつトゥデイ」で1'09.256をマーク。

続いての2番手は1'10.098を記録したNo.7「あんじょうトゥデイ」。このチームもシリーズ4位と安定した速さを持っている。

3番手には前回3位となったNo.36「JKレーシングトゥデイ」で1'10.840をマーク。以下4位にNo.38「デモリッションエグゼットゥデイ」、5位No.77「JKパワーズトゥデイ」、6位にNo.48「SHINWAサトー建材BEAT」と続いた。



序盤

60分を経過すると1回目のピットインを引っ張ったチームが大きくリードする形に。1位のNo.36「JKレーシングトゥデイ」の37LAPを筆頭に、2位No.48「SHINWAサトー建材BEAT」、3位No.97「TSRトゥデイ」までがピットインを引っ張り、4位以下に差を付けるが、最終的には3回のピットインが義務付けられているだけに、この判断がどう出るのか…。

一方、1回目のピットインを済ませたチーム同士の争いは熾烈で、4位のNo.10「ぼんこつトゥデイ」、5位のNo.7「あんじょうトゥデイ」、6位のNo.38「デモリッションエグゼットゥデイ」の3台は同一周回となる32Lap同士でのバトル。

以下、7位のNo.22「CRAZY Racingトゥデイ」、8位のNo.100「HACもらいものビート」も1Lap差で追いかけ、まさに団子状態に…。



中盤

レースも3分の2となる120分経過時点での1位は依然No.36「JKレーシングトゥデイ」で周回数は67LAP。2位には1周遅れでNo.38が、3位にはさらに2Lap遅れでNo.97が続くが、これらのチームはピットインの回数が少ないために頭一つリードしている形に。

4位と5位は同一の62LAPでNo.22「CRAZY Racingトゥデイ」とNo.10「ぼんこつトゥデイ」が争い、6位はそこから1Lap遅れでNo.4「ロワードモーショントゥデイ6号」が追い上げてくる。以下7位のNo.48、8位のNo.100もそこから1Lap遅れと、最後まで入賞争いはわからない状態に。



最終結果

酷暑の中、激戦のKTCクラスを制したのは、No.36「JKレーシングトゥデイ」で97Lapを周回。昨年度のチャンピオンチームが今年3戦目にしてようやく勝利を手にした。

2位には今年初参加のNo.22「CRAZY Racingトゥデイ」が入る。今年は初参加ながら、昨年はクラス5位となっており、実力を発揮した形に。

3位にはNo.38「デモリッションエグゼクトゥデイ」が2位と同一周回の94Lapを走りきるも一歩及ばず。

4位、5位は93LAPでNo.10「ぼんこつトゥデイ」、No.4「ロワードモーショントゥデイ6号」と続き、さらに1Lap遅れで6位No.7「あんじょうトゥデイ」、7位No.97「TSRトゥデイ」と続いた。

このクラスは台数も多く実力が伯仲しているため、僅かな差で順位が大きく変わってしまう。

優勝チームが3戦とも変わったため、ポイント争いもますます混沌とし、いよいよ第4戦がシリーズの勝負となりそうである。



KNOクラス(軽NAのオープンクラス)

エントリー台数が過去最高の8台となり、KNCクラスに負けず劣らずの激戦となったこのクラス。前回優勝のNo.126 アンティスネコマルチームは、マシンをビートからトゥデイに変更し連勝を狙うが、ウエイトハンディーが15Kgあるためどう影響するか。

また、初参加チームが3チームあり、これらのマシンが常連チームにどう絡んでいくのかも注目のポイントとなった。



予選

予選1番手となったのはNo.126「アンティスネコマルトゥデイ」。タイムは総合でもトップとなる1'03.799をマークしたが、30近い気温を考えると驚異的なタイムである。

2位には初参加のNo.296「小山輪業KR-O二軍トゥデイ」で、1'08.453を記録。そこから遅れること0.3秒の3位には、No.223「ネライウチリンダトゥデイ」が入り、4位には希少なNA車アルトのNo.12「サイドカーショップ東海アルト」が1'09.616で付ける。

以下5位にNo.82「東海麗神愚×本田今日子トゥデイ」、6位にNo.211「白須賀会トゥデイ」と続いた。



序盤

60分経過時点でのトップは予選ポールスタートのNo.126「アンティスネコマルトゥデイ」で38Lapを周回。2位には1Lap差でNo.296「小山輪業KR-O二軍トゥデイ」が追いかける。そこから2Lapダウンの3位にはNo.82「東海麗神愚×本田今日子トゥデイ」、さらに1周遅れでNo.12「サイドカーショップ東海アルト」が続き、予選上位チームが良いポジションをキープする形に。



以下 5 位 No.223「ネライウチリンダトゥデイ」、6 位 No.211「白須賀会トゥデイ」と続く。

中盤

レースも 3 分の 2 を消化した 120 分時点での 1 位は、No.126「アンティスネコムルトゥデイ」。総合でもトップ周回となる 72 周をラップする。

2 位も予選から変わらずの No.296「小山輪業KR - O二軍トゥデイ」が付け、69Lap を周回。3 位はそこから 5Lap の差があるため、トップ争いは上位 2 台に絞られた感が出てくる。

3 位には No.82「東海麗神愚 × 本田今日子トゥデイ」が 64Lap で付け、4 位の No.12「サイドカーショップ東海アルト」が 4 周差で追いかける。しかしこの 2 台、この後間もなく予期せぬ出来事が…。No.82「東海麗神愚 × 本田今日子トゥデイ」は 2 度のペナルティーを受けて大きくタイムロス。また No.12「サイドカーショップ東海アルト」はマシントラブルでリタイヤとなってしまう。

5 位以下は僅差で続き、No.211「白須賀会トゥデイ」、No.223「ネライウチリンダトゥデイ」、No.57「伊藤家レーシングチームトゥデイ」、No.134「YTS URGトゥデイ」の順だが、僅差ゆえにこれらのチームはまだ 3 位を狙えるという混戦状態。



最終結果

トップでチェッカーを受けたのは No.126「アンティスネコムルトゥデイ」。102 周を走りきり、ターボ勢を押さえて総合 1 位も獲得した。

2 位には 98 周をラップした、初参加の No.296「小山輪業KR - O二軍トゥデイ」が入った。車両名こそ二軍と謙遜しているが堂々たる結果。次戦からは間違いなく他チームにマークされるであろう。

3 位にはレース終盤で一気に挽回をした No.57「伊藤家レーシングチームトゥデイ」が入る。このチームも初参加であり、常連チームを見事に押さえ込んだ。

4 位から 6 位までは同一周回となる 89Lap での僅差の勝負に。この争いを制しての 4 位は No.211「白須賀会トゥデイ」で、以下 5 位に No.223「ネライウチリンダトゥデイ」、6 位に No.82「東海麗神愚 × 本田今日子トゥデイ」と続いた。



KTCクラス(軽ターボのクローズドクラス)

じわじわと台数が増えてきたこのクラス。今回は 9 台のエントリーで激戦区となった。

このクラスはシリーズポイント争いが最も熾烈で、1 位の 30pt を頭に、4 位でも 25pt と超僅差。この接戦から抜け出すのはどのチームとなるのか？

予選

予選 1 位のタイムをマークしたのは、何と初参加の No.27「タナカオートレーシングアルト」で、タイムは 1'07.405 をマーク。はるばる大阪からエントリーのこのチーム、当シリーズは初参加だが他シリーズでは上位入賞の実績がある実力チーム。

続く 2 位には、トップから遅れること僅か 0.03 秒という F1 の予選並みの接戦で No.14「ガレージシヤマ アルトバン」が入る。

3 位は開幕戦の覇者 No.78「ガレージ風屋チャレンジアルト」が、1'08.149 のタイムで 2 位のすぐ後ろに付け、4 位には前回優勝の No.210「ZEST MSC 豊橋



ワークス」が 1'08.842 で、こちらも上位を追いかけるには十分な位置に付ける。

以下、5 位には初参加の No.15「ガレージシヤマTTSセルボ」、6 位には No.21「ZESTレンタルマシーンセルボ」と続く。

序盤

60 分経過時点で 1 位に立ったのは、35Lap を周回した No.21「ZESTレンタルマシーンセルボ」。1 周遅れの 2 位と 3 位は、No.14「ガレージシヤマ アルトバン」とNo.15「ガレージシヤマTTSセルボ」の同門チームがそれぞれ位置する。

続く 4 位と 5 位も同一ラップの 33 周で、No.78「ガレージ風屋チャレンジアルト」、No.210「ZEST MSC 豊橋ワークス」が追う展開。さらに 1 周遅れの 6 位に No.112「白須賀会ワークス」が付け、ここまでシリーズ上位の 5 台が全て入っているところが興味深い。

中盤

レースが 120 分を経過しても、このクラスは混戦模様が続く。1 位から 3 位までが 65 周で肩を並べる展開で、1 位 No.21「ZESTレンタルマシーンセルボ」、2 位 No.14「ガレージシヤマ アルトバン」、3 位 No.78「ガレージ風屋チャレンジアルト」のオーダー順。

4 位もわずかに 1 周差で No.210「ZEST MSC 豊橋ワークス」が、さらに 1 周差の 5 位には No.112「白須賀会ワークス」が付け、表彰台争いはこの 5 台に絞られてきた感が。

そこからやや周回が開くが 61Lap の 6 位には No.26「田中オートレーシングカプチーノ」、60Lap の 7 位に No.15「ガレージシヤマTTSセルボ」、59Lap の 8 位に No.88「遠州商会 & 花りん号ミラ」と続き、これらのチームもまだまだ入賞は狙えるポジション。

最終結果

終始混戦のこのクラスを制したのは、No.14「ガレージシヤマ アルトバン」。98 周を走りきり総合でも 3 位という素晴らしい結果で、悲願の初優勝となった。

同一周回で惜しくも 2 位となったのは、No.78「ガレージ風屋チャレンジアルト」で、1 位まであと 25 秒届かなかった。

3 位には No.210「ZEST MSC 豊橋ワークス」が入り、こちらもトップから遅れることわずか 1Lap であった。

4 位と 5 位は 94Lap の同一周回での争いとなり、初参加ながら見事な走りを見せた No.15「ガレージシヤマTTSセルボ」が 4 位に、途中まではトップを行く快走を見せた No.21「ZESTレンタルマシーンセルボ」が 5 位となった。

以下 93 周での 6 位に No.112「白須賀会ワークス」が入ったが、大きなシリーズポイント獲得は出来なかった。

今回、シリーズ上位チームはそつなくポイントを重ねる結果となった。各上位チームとも安定した速さを持っているため、いかにミスをせずまたマシンを万全な状態で戦えるかが今後のポイントとなりそうである。シリーズの行方は最終戦(選抜戦)までもつれることは必至であろう。



KT0クラス(軽ターボのオープンクラス)

KT0クラスは8台のエントリー。今年の常連チーム5台に加え、過去にエントリー実績のある手ごわい3チームが加わり、激しい戦いが予想される。

予選

予選上位3台はわずか0.2秒の中に入るといふ、いきなりの混戦で幕を開ける。そんな中1位を獲得したのはNo.113「ハーフウェイ ル・マン コペン」で1'06.535をマーク。このチームはゲストドライバーとして福山英朗氏を擁し、どんなドライビングを見せてくれるのか興味津々となった。

トップから遅れること0.2秒の2位にはNo.59「ナルミファクトリーアルト」が入る。このチームは上位の常連だが優勝はまだ無く、今回こそ悲願達成なるか。

そこからわずか0.02秒差の3位にはNo.1「DXLMビウスセルボモード」が付け、開幕戦以来の優勝を狙う。

以下4位にNo.333「チームサンコーカプチーノ」、5位にNo.8「チームグローバルカプチーノ」、6位にNo.55「水野自動車ワークス」と続く。



序盤

1時間を経過した時点でのトップは、予選3番手からスタートしたNo.1「DXLMビウスセルボモード」。38周をLAPし総合トップと並ぶ周回数を記録。

2位には1Lap差でNo.113「ハーフウェイ ル・マン コペン」が追いかける。

3位以下8位まで、順位が一つ下がるごとにきれいに1Lapずつの差となる。

その筆頭の3位には34LapのNo.59「ナルミファクトリーアルト」、4位No.8「チームグローバルカプチーノ」、5位No.333「チームサンコーカプチーノ」、6位No.42「Legend of カプチーノ」と続き、まだまだ先は見えない。

久々参加のNo.111「行革アルト2号機」は、マシントラブルで1時間を走りきらずしてリタイヤしてしまう。

中盤

120分を経過した時点でも依然1、2位は変わらずNo.1「DXLMビウスセルボモード」とNo.113「ハーフウェイ ル・マン コペン」が2周の差で争う展開。

3位のNo.59「ナルミファクトリーアルト」も2位からわずか2周差で、逆転優勝に望みをつなぐポジションをキープ。

4位No.8「チームグローバルカプチーノ」も3位と1周差であり、ここまではトップの姿が何とか見えるポジション。以下5位にNo.42「Legend of カプチーノ」、6位にNo.55「水野自動車ワークス」と続く。

最終結果

最終的にこのクラスを制したのは、No.1「DXLMビウスセルボモード」。総合2位となる100周を記録し、開幕戦以来の2勝目をあげた。

2位にはNo.59「ナルミファクトリーアルト」が98周で続いたが、悲願の初優勝は次回以降にお預けとなった。

3位と4位は同一周回数での闘い。その争いを制したのはNo.8「チームグローバルカプチーノ」で3位をGET。4位となったのはNo.113「ハーフウェイ ル・マン コペン」であった。

以下5位にNo.42「Legend of カプチーノ」、6位には昨年最終戦ぶりに参加したNo.55「水野自動車ワークス」が続いた。



KWTクラス(軽ワゴン&トラックのクラス)

前回第2戦では、2台のアイがしのぎを削る争いを見せたこのクラス。残念ながら前戦で転倒のアクシデントに見舞われた No.33 のチームは今回参加できなかったため、このクラスはアイとキャリイ、2台の争いとなった。



予選

予選1位は No.2「クリエイター山田印ワキアイアイ」。チタンパーツもふんだんに使い徹底的に軽量化したマシンはA/T車とは思えない走りで1.14.101のタイムをマーク。2番手には初走行マシンとなる No.71「スズキキャリイ」が1.20.170で続く。



序盤

60分経過時点でのトップは No.2「クリエイター山田印ワキアイアイ」。予選さながらのタイムで順調にラップを重ねる。2番手の No.71「スズキキャリイ」は軽トラ初ドライブのドライバーがいるためなかなかペースは上がらない。

中盤

この時間のトップも依然 No.2「クリエイター山田印ワキアイアイ」。57Lapを周回するもピットタイミングの不運があり、大きくロスしてしまう。そのロスに助けられた2位の No.71「スズキキャリイ」は1周差の56Lapに付ける。

最終結果

終始トップをキープしていた No.2「クリエイター山田印ワキアイアイ」だったが、たび重なるピットタイミングの不運に見舞われ、最終ピットインのタイミングで No.71「スズキキャリイ」に先行を許す形に。

結局、そのアドバンテージを守りきった No.71「スズキキャリイ」が僅差ながら1位でフィニッシュする形となった。ラップタイムでは圧倒的な速さを見せていた No.2「クリエイター山田印ワキアイアイ」だったが、惜しくも2位に終わる結果となった。

しかしシリーズポイント上は No.2「クリエイター山田印ワキアイアイ」が大差でリードしており、圧倒的優位は変わらない。

